

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O172500266		
法人名	医療法人社団 滋恒会		
事業所名	グループホームなかじま(1階ユニット)		
所在地	北海道余市郡余市町大川町4丁目23番地		
自己評価作成日	令和6年3月14日	評価結果市町村受理日	令和6年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyCd=0172500266-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyCd=0172500266-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、今まで暮らしていた自分の家の様に自由に気楽に暮らして頂きたいと思っております。しかし、どうしても自分の家とは違います。帰りたい思いでここで暮らしていることを理解し、支援していきたいと思っております。それには、自分がこのホームで暮らしていたらどうなのかを常に考えて支援することです。つまり、その人の人生を振り返り、良く知ることによってこれからの人生に何が必要なのか、身体介護ばかりではなく、楽しみや生きがいを見出して暮らして頂きたいと思っております。そのために、なるべく地域との交流や社会参加を積極的に行っています。春になれば果物農園に出掛け、夏にはお祭りに参加し、秋には外食に出掛け、冬にはボランティアの方に来て頂いて、暮らしに変化をつけ気分転換していただいております。「このホームに来て本当に良かった。」と喜んでいただけて、頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームなかじま」は、JR余市駅から徒歩で15分程の余市湾に近い静かな住宅地に立地している2階建て2ユニットの事業所である。近くにはバス停や公園、飲食店などもあり生活の利便性が高い。玄関や居間、食堂は広々とした造りで、一般家庭のような温かさや落ち着いた雰囲気が感じられる。管理者を中心に、全職員で利用者一人ひとりの意向と尊厳を大切にその人らしい生活ができるように丁寧なケアを行っている。感染症の流行や介護度の変化により全員での外出は難しくなっているが、散歩や買い物、外食なども個別対応で積極的に行っている。管理者は、各職員と普段から話をする機会を設けて意見や提案を聞き取り、働きやすい職場環境を整備しており離職率が低いグループホームである。先輩職員も新人職員の意見や提案を大切な視点と捉えて耳を傾け、ケアの変更や改善に活かすなど真摯な姿勢で仕事に向き合っている。母体が医療法人のため、主治医による週1回の訪問診療と週2回の看護師訪問が実施されており医療体制が充実している。専門医を受診する時も職員や看護師が同行して利用者の健康状態を伝え、個々に応じた適切な医療支援につなげている。管理者は前向きに職員の育成に努めるとともに全職員で温かなケアに取り組んでおり、利用者が安心して暮らせるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲げ、実践につなげている	「尊厳を守り、明るく安心の出来る暮らしのお手伝いをします」という運営理念を玄関や各ユニットに掲示し、会議などで確認している。運営理念を基に、地域密着型サービスを意識したケア理念の作成も考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事等を通じ地域とのつながりを保てるよう心がけているが、最近ではコロナ当の感染症の影響で達成できていない	感染症流行前は道の駅のパザーに参加したり、ボランティアも訪れていた。近年は散歩で近隣住民と挨拶を交わしたり、地域の店に買い物に行く程度になっている。新年度は、道の駅のパザーへの参加も考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自で劇団公演等を行い、認知症の理解や支援方法等を提案してきた。最近では講演依頼がないため、活動は行っていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの感染防止の観点から、面会制限を行っており、運営推進会議も行っていない	感染症流行のため、会議は開催していない。今後は感染状況を見ながら書面会議や対面会議を定期的に開催する予定である。会議案内と議事録は全家族に送付しているが、家族代表の参加に限られることが多い。	テーマを記載した会議案内を送付し、参加できない家族の質問や意見なども会議に反映させるような取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報を共有し、協力関係を築けるよう努めている	書類の提出などで役場を訪れ、担当者との情報交換する機会を設けている。地域包括支援センターから入居相談を受けることもある。福祉事務所と該当利用者の情報交換をしている。現在相談する事例はないが、いつでも相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の実例はない 研修会には参加している	マニュアルを整備し、勉強会でも具体的な禁止行為11項目を確認している。3か月ごとに委員会を開催して全職員で情報を共有している。委員会の議事録に身体拘束の有無に関する検討内容を記録し、勉強会の実施日と資料も分かりやすく整備する予定である。玄関の鍵は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間で声をかけ合いながら、虐待が発生しないよう努めている		

グループホームなかじま

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解し、必要時に関係機関と連携が取れるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明を行い、ご家族には納得・ご理解をいただいている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接ご家族から聞き取ったり、言いにくい場合は役場や国保連などの機関に申し立てる手段があることを説明している	面会時や電話、介護計画の作成時に意見や要望を聞き取り、業務日誌に記録している。毎月、写真を載せたお便りを家族に送っている。家族の状況に応じて、個別に手紙を送ることもある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	周囲のスタッフの意見や提案を聴き入れるよう努めている	管理者は、普段から各職員の話聞く機会を設けている。新人職員の意見や提案も大切な視点と捉え、全職員が耳を傾けてケアや運営の変更、改善に活かしている。職員はレクリエーションやお便りなどの係を担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者不在が多いが、適宜情報を伝えその都度環境改善に取り組んでいる 法人事務からの情報により、実情は把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	適宜研修受講等にむけ働きかけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ等の感染症対策の影響により、グループホーム連絡協議会の活動が停止しているため、実践できていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なまま入居することにならない様に、安心するための具体的な案や方法を提示し、信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心してこちらに任せられる様、解決策を提示し、納得・信頼していただけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の以前の生活ぶりを把握した上で、必要な支援を見極めている。他にも楽しみや生きがいになる事があれば外出もします。又、体調を崩したりした時は、当グループホームの介護職員と主治医(中島内科)と連携し、医療と介護双方を勘案した対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度によっては対応に精一杯になってしまう時もあり、日々時間も無い中、なかなか一緒にゆっくり出来ない		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時などには、利用者様の暮らしぶりや変化などを正直に伝え、家族ならではの協力を促し、巻き込みながら全体で利用者様を支えている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ等の感染症の影響で、実施できていない全体的な介護度の上昇により、関係継続が難しい場合が多い	近所の方が訪ねて来たり、電話やハガキが届く利用者もいる。ハガキの返信が難しい時は職員が電話をかける支援をしている。職員と一緒に、馴染みの理美容室に出かける利用者もいる。家族と親族の家に行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特定の利用者様同士のいがみ合いや、一方的な嫌悪などがあり、トラブルが起らないように職員側が配慮する形になってしまっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了した後(中島内科に入院になった時等)は、他の利用者さんの通院の際に顔を見に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向が反映された暮らしが出来るよう努めている	会話や表情、仕草などから思いや意向を把握している。利用開始時にセンター方式シートで暮らしの情報を得ているが、趣味や嗜好に関する書類の更新は行っていない。	書面で利用者の現状が把握できるように、趣味や嗜好の変化に応じて「私の暮らし方シート」に具体的に追記したり定期的に更新するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートを活用し、ご本人・ご家族からこれまでの生活歴をお聞きしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報を共有し、身体状況の把握や残存機能維持・向上等に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、意見を出し合ったり、現状の把握に努めている	計画作成担当者を中心に全職員で評価を行い、3か月ごとに介護計画を作成している。本人の状況を詳しく伝え、家族の意向を具体的に聞き取るよう努めている。「ケア記録」にプラン内容を印刷し、日々の変化や課題を意識しながら記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変わり映えのない日誌になりがちなので、日々のちょっとした言動や変化を書き記せるようにしたい		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	人的余裕が無い時もあり、なかなか難しいところがあるが、出来るだけ柔軟な支援ができるよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で出されている広報や新聞で地域資源を把握するようにして、公民館で行われるシルバーアート展に出展・見学したり、お祭りに参加するなどしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営主体が診療所であり、毎週往診がある	週1回の訪問診療と週2回看護師の訪問がある。専門医を受診する時は、主に事業所に対応し職員や看護師が同行して利用者の健康状態を伝えている。健康面の記録は「看護記録」に記入している。	

グループホームなかじま

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一法人である中島内科との連携状況は良好で、随時連絡を取り合い、適切な受診や看護を受けている。 週に2日、看護師が勤務している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	中島内科以外に入院した時も、随時お見舞いに伺い、病院関係者に情報を聞いて、出来るだけ早期に退院できるようにしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて、介護職員や主治医から早い段階でご本人・ご家族と話し合う機会を設け、事業所としてできることと、ご本人・ご家族の希望を確認している	利用開始時に「看取りに関する指針」に沿って、重度化した場合や看取りに関する考え方を説明している。体調変化に応じて医師と家族、事業所で方針を話し合っているが看取りを希望する方は少なくなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	頭では理解していても、現実には起これば混乱してしまいかねないので、日ごろから確認・実践訓練が必要		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者を交えた避難訓練を行いたいところだが、A DLが低下した方や精神的に混乱を招く方が多くなり、怪我の防止等の観点から、ここ数年は入居者を交えた訓練は行っていない	感染症の流行で、近年は年1回夜間の火災を想定した自主訓練を職員のみで行っている。今後は年2回、昼夜を想定した避難訓練を消防署の協力の下に実施する予定である。地域住民の協力が得られないため、消防署と避難方法を確認している。	各種災害時におけるケア別の個別対応について話し合い、定期的に再確認するよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけについては“馴れ”が出てきてしまう時があるので、気を付けたい	会議などで言葉遣いについて話し合い、馴れ馴れしい言い方は注意している。申し送りは離れた場所で行い、個人ファイルなどの情報は戸棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特に、ご自身の思いや希望を口に出せない方には、その表情などで意思を汲んであげられるよう努め、決定は自己決定できるよう支援する事を心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の数や時間に余裕が無く、なかなか希望通りにいかないときもあるが、一人ひとりがその人らしく暮らして頂けるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれが好みの服を選んで着たり、お化粧をする方もいる		

グループホームなかじま

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきなど手伝っていただいている。一緒に食事をして味の感想を言い合ったり、下膳時も全員で協力して行っている。	献立は、職員が交代で利用者の好みを取り入れて作成している。誕生日は好みの赤飯や茶碗蒸しなどでお祝いし、プレゼントを渡している。敬老会には寿司の出前を取り、好きなものを選んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は、それぞれの食べられる量に合わせて調整している。食事が摂れなくなってきている方には好みの物を提供。水分は摂取しながらの方が数名おり、様々な方法で促すもなかなか摂取が難しい場合がある。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食は実施できておらず、個々人でしたい方だけしている現状			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁が多い方に対してはトイレへの誘導を試みているが、本人の自覚無く拒否が多い。また、失禁して服を濡らしたことも忘れてしまっており、対応が難しい。	排泄チェック表を基に状態に合わせて支援し、ほとんどの方がトイレで排泄している。自分でできる方が多く、利用者の思いに沿って綿下着で過ごす方もいる。介護が必要な場合は、できる動作を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方や、それぞれの排便状況は毎日職員同士で共有し、服薬や水分摂取などの対応をしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯はある程度決まっているが、入る入らないの決定は基本的に各々にお任せしている。認知症により入浴拒否が多い方には、声かけの仕方・タイミング等を工夫しながら入浴していただけるよう働きかけている	毎日入浴が可能で、午後に2~3人の入浴を支援し、一人週2回を目途としている。拒む場合は声かけなどの工夫で入浴につなげている。個別に意向を聞き、好みのシャンプーや入浴剤を使用し、ほぼ全員が湯船に入り職員と会話を楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時に自室に戻って休まれている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての服薬情報を理解できていないため、日ごろから確認するよう努めたい			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに出来ることがあるので、個々人に合わせた役割や楽しみ事を、サービス計画に盛り込み、支援を行うよう努めている			

グループホームなかじま

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ等の感染症の影響により、必要な通院以外外出できていない。また、全体的な介護度の上昇やスタッフ不足も影響している	感染状況を見ながら、事業所の周囲や裏側にある海を眺めて散歩している。ベランダでお茶を楽しんだり、花壇や畑の草むしりなどをして外気に触れている。車で川辺に植えている桜の花を見に出かけている。個別の希望に沿って洋服などの買い物も支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金に関してはこちらで預かっているが、利用者何名かはいくら所持している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合は、職場の電話をお貸ししている。また、利用者何名かはご自分の携帯電話を所持している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすい空間づくりに努め、季節やイベントにちなんだ飾りつけなども行っている。	共用空間は台所・食堂と別に居間が配置しており、中間のスタッフルームの窓を通して職員や他利用者の様子が分かる家庭的な造りになっている。壁には利用者の作品や季節の装飾が飾られている。明るく開放的で居間や玄関などに、大小の縫いぐるみや小物が置いてあり温もりが感じられる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にアルコープが2ヶ所あり、植物に手をかけたり、畑を眺めたり、テーブルで作業することができます。また、食堂や居間で思い思いに過ごせるよう支援している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っていたタンスを持ち込まれたり、写真を飾られたりと、思い思いの居室空間づくりをされている	居室入口に本人好みの飾りプレートが掛けられている。室内にはクローゼット、ベッドが備えてあり、自宅から使い慣れたタンス、机・椅子セットを持ち込み書棚にはDVDや本を並べている方もいる。壁には家族の写真や本人の作品などを飾り、その人らしい居室になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様は皆、自立度や理解度がさまざまであり、できる事でも「やりたくない」という本人の意思がある方もいるので、臨機応変な対応を心掛けている			



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O172500266		
法人名	医療法人社団 滋恒会		
事業所名	グループホームなかじま(2階ユニット)		
所在地	北海道余市郡余市町大川町4丁目23番地		
自己評価作成日	令和6年3月14日	評価結果市町村受理日	令和6年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvovsyoCd=0172500266-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvovsyoCd=0172500266-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、今まで暮らしていた自分の家の様に自由に気楽に暮らして頂きたいと思っております。しかし、どうしても自分の家とは違います。帰りたい思いでここで暮らしていることを理解し、支援していきたいと思っております。それには、自分がこのホームで暮らしていたらどうなのかを常に考えて支援することです。つまり、その人の人生を振り返り、良く知ることによってこれからの人生に何が必要なのか、身体介護ばかりではなく、楽しみや生きがいを見出して暮らして頂きたいと思っております。そのために、なるべく地域との交流や社会参加を積極的に行っています。春になれば果物農園に出掛け、夏にはお祭りに参加し、秋には外食に出掛け、冬にはボランティアの方に来て頂いて、暮らしに変化をつけ気分転換していただいております。「このホームに来て本当に良かった。」と喜んでいただけて、頑張っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年3月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を食堂に見やすい所に掲げており、入居者のその人らしい暮らしができるよう、情報を共有しながら実践している。 開業以来、理念の変更はない		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ここ数年は、コロナ等感染症の影響で交流する機会がなかった		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で、事業所内でのみ滞っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ここ数年は、コロナ等感染症の影響で会議を開催することができなかった		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	手紙・電話等で連絡を取り合い、協力関係を保つよう努めている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んではいが、本人や他の方の安全・安心を守るため、状況によってはグレーな対応を余儀なくされる場合もある		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の口調が荒い時などには、お互いに声をかけ合い注意している		

グループホームなかじま

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、学ぶ機会が少ない。今後は、社会福祉協議会や地域包括支援センター等と情報を共有したり、研修に積極的に参加し、理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には、ホームの生活の様子を事前に見学して頂き、納得できるまで十分な説明を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お互いに意見を言いやすい関係を築けていると思う		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとに話し合いの場を設け、個別に対応できるよう努めている 新規入居者に対する会議等はない		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が現場の職員を関わる時間は少ないが、全体会議の際等に、現状把握に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的な参加を促し、一人ひとりの能力向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ等の感染症の影響でグループホーム連絡協議会の活動が停止しているため、実施できていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れるまでご家族の方へも説明し、連絡を密に取り合い不安を取り除けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何でも気軽に話して頂けるような雰囲気作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループホームの介護職員と主治医(中島内科)と連携し、医療と介護双方を勘案した対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中で、一緒に食事の準備などの家事をしたり、喜怒哀楽をに共有し、暮している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から家族の方に近況報告し、ご意見を頂きながら共に支援していくよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ等の感染症の影響で、実施できていない 全体的な介護度の上昇により、関係継続が難しい場合が多い		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に応じて、職員が仲介したり、利用者同士の関わりが促進するよう努めている		

グループホームなかじま

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、家族の方で来訪して下さる方がいます。経過もフォローしながら、必要に応じ相談など対応している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言動や表情から気持ちを汲み取ったり、全てではないが本人の意向に沿えるよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主にご家族からの情報収集になるが、ご本人からの情報収集にも努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に記入・共有し、現状把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングを行い、利用者主体で介護計画を作成しています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子、個人別ケア記録に詳しく記入し、1日の様子や情報を共有しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体の介護ばかりではなく、一人ひとりの楽しみや要望を聞いて引き出すことに努め、支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握・協働までにはいたっていない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回、主治医(中島内科)の往診を行っている。また、随時状況を報告し、必要に応じて受診、他科への紹介を行っている。		

グループホームなかじま

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一法人である中島内科との連携状況は良好で、随時連絡を取り合い、適切な受診や看護を受けている。 週に2日、看護師が勤務している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院によっては情報を提供してくれないところもあり、関係作りは難しい面もある		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて、介護職員や主治医から早い段階でご本人・ご家族と話し合う機会を設け、事業所としてできることと、ご本人・ご家族の希望を確認している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の行う救命救急講習に全職員が定期的に参加しているが、日頃から意識を高められるよう、講習に積極的に参加していきたい		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者を交えた避難訓練を行いたいところだが、A DLが低下した方や精神的に混乱を招く方が多くなり、怪我の防止等の観点から、ここ数年は入居者を交えた訓練は行っていない		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の年齢、性格、過去の状況を把握し、個々に会った声掛けをするよう努めているが、全てが良い声掛けではない時もある。配慮が足りない時は、職員間で注意しあうことも大切だと思われる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望に対してそれとなく問いかけ、最後は自分で決めてもらえるよう支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりがその人らしく暮らして頂けるよう努めているが、職員の数や時間に余裕が無く、なかなか希望通りにいかないときもある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の希望に合わせ、馴染みの理美容店に出向いたり、外出が難しい方には、近隣の理容店にお願いし、出張散髪をしてもらっています		

グループホームなかじま

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ・簡単な調理・盛付配膳等、利用者と一緒にしている			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ残しの量、水分摂取量などは職員間で情報を共有し、一日を通してバランスよく摂取していただけるよう努めています			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。できない方には介助している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用。言葉に出せない方には、表情や言動から身持ちを汲み取れるよう努めている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物の工夫はもちろん、排便のチェック、場合によって服薬の支援し、職員間で状態を共有するよう努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に合わせ、無理なく、気持ちよく、入ってよかったと思って頂けるように努めている。入浴前にバイタルチェックを行い体調に合わせた支援と、同性介助を希望される方の気持ちに配慮した支援を心掛けている			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ、毎日同じリズムになるような生活を心がけ、休息して頂けるように配慮している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は、ファイルにまとめてあるので、すぐに閲覧できるようになっている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに出来ることがあるので、個々人に合わせた支援を行うよう努めてはいるが、その方の心身の状態や、職員の数・時間の制約があると、難しい時がしばしばある			

グループホームなかじま

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ等の感染症の影響により、必要な通院以外外出できていない。また、全体的な介護度の上昇やスタッフ不足も影響している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ない方は、ご家族の同意を得て職員が管理しているが、それ以外の場合は、極力ご自身で管理してもらうよう努めている。希望により、印鑑や通帳、大金を事業所の金庫で預る場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、その都度電話する事は可能。先方にも、また気軽に電話してきてもらえるよう声掛けをしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作品を了承のもと掲示したり、季節を意識できるような装飾を心掛けている。各居室に湿度計を設置し、環境把握に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にアルコーブが2ヶ所あり、植物に手をかけたり、畑を眺めたり、テーブルで作業することができます。また、食堂や居間で思い思いに過ごせるよう支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんす、テレビ、テーブルなど、ご本人にとって馴染みのある物を極力持ってきていただいています。居室では使いにくい物や、新たに購入を検討している方には、ご家族とも相談しながら、ご本人に決めていただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室などに手すりを設置し、安心・安全に行動できるよう配慮しています。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホームなかじま

作成日：令和 6年 4月 10日

市町村受理日：令和 6年 4月 10日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	テーマを記載した会議案内を送付し、参加できない家族の質問や意見なども会議に反映させるような取り組みができていなかった	運営推進会議のテーマを決め家族の参加を呼びかけていくとともに、個別に意見を聞きとりし、会議に反映させていけるように取り組んでいく	テーマを決め事前に家族の方へ質問や意見を求め、参加できなくても反映させていけるような工夫を心がけていく	1年
2	23	書面で利用者の現状が把握できるように、趣味や嗜好の変化に応じて「私の暮らし方シート」に具体的に追記したり定期的に更新していなかった	長年馴染んだ習慣や好みを聞き取り、現在の状態や状況を3ヵ月ごとに振り返り希望や意向を反映できるようにしていく	センター方式のB-3暮らしの情報(私の暮らし方シート)を活用し定期的に見直していく	1年
3	35	各種災害時におけるケア別の個別対応について話し合い定期的に再確認する機会がなかった	災害時個別のケア対応について話し合いをし、記録に残しいつでも対応できるようにしていく	避難方法だけではなく、入浴時などの個別対応を話し合い職員会議などの際に再確認していく	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。